

## 保母となりし最初の

一週間

某

女

十一月七日 木曜日 晴天 晴あまりよるし

先生は、天氣と子供とは、よほど關係のあるもの

だと仰せられました。實にその通りで、今日の

様な空寒い晴れくしない日には、室に居る子供

が多い様であります。花瓶の水を取りかへて居ま

すと、幼児は手傳はんと、四方八方から、小さき

手を出して、争ふ様になりましたから、早く来て

居る人から、漸次に手傳はしてやりました。本人

の得意は、實に大なるものであります。残つて

居るものには、その心中を察して、腰掛を正して

置く様にと命令しました。幼児は保母の仕事を手

傳ふを以て、無上の名譽として居るらしいから、

これを誘導して勤勉の習慣をつけたいものと存し

ます。風かありませんから、庭に出で鬼事をいたしました。随分永續しても飽きません。その原因は、こ

の遊びかよほど活動力を消費するのと、鬼が代るのと、走る場所に變化かあるためかと存しました。

會集の次に發聲の練習をいたしました。大失敗

でありました。それは音程練習ドミソドを、アと

發音してやらせる積りてありましたが、幼児の方

を見て居る中に、半音の處を抑へて居たこと、

アアと發聲させようとして、口つきを一度に事々

しく説明したことでありました。幼児は簡單を好む

ものである上に、口つきなどは言葉で説明するよ

り、直觀させるべき筈なることは、聞いて置きな

から、いざその場になれば、従來の教授口調が出

てしまひます。

砂場に出て、土木工事の眞似をして居るのを見て

居ますと、レールや墜道を作つて居ます。その墜

道の形は、天蓋が無くてたゞ兩壁を高くしたのみ

でありますから、天井はつけないの？と聞きますと、天井とは何と不思議そうな顔をして居ますから、幼児の瀛車の窓より觀察した墜道は、天蓋の見えざるために、天蓋なきものと思へるならんと

推斷いたしました。山を二つ作つて喜んで居る中に、木端を拾つて山頂に架し、橋が出来たといひました。山頂の橋は大人の目では雲にかけ橋の様なもので、實にかしいもので御座います。幼児には何の不思議もなし、橋を架した瞬間には、山といふ觀念が堤といふ觀念に變化したのであります。心機の変換早くして想像の自由活潑なるには實に驚きました。

それから、先生の唱歌がありました。繪畫も使用せられ、手眞似も入れられ、唱歌に連關して鶏に菜をやることなどを教へられ、多方向にして變化あり、幼児も大に喜びました。

殊に敬服いたしますは、多方向なる變化の中に連絡があることです。

その一節を挙げますと、お馬進めの唱歌をなした後に、大變塵が立ちましたから、皆さんに水鐵鉤で水をまいてもらひませうといはれて、その唱歌をせられ、次にその水の中へ鯉を入れて遊びませうと仰つて、鯉の唱歌をせられた終に、唱歌を幼

兒に選ばしめられました。皆一聲にポートといひました。

先生の御導きでは、幼児の連想がポーと来るのが當然である。さすかは先生よと敬服いたしました。

食後、小雨をばち、外遊に不適當と思ひましたから、弄具室で繪を見せてやりました。男兒は動物を喜び、市原は英語でその名をいひます、坪井はその居る場所を當てます、その家庭の様の大体はこれで想像出来ました。

女兒は動物よりも手技を好み、紙折りなどをいたしました。併し兩者何れも永續せず、こゝに居るかと思へば何時か彼所に飛んで行き、頻に喋舌つたり、大なる積木で濼車を作る手傳をしたりして居ます、その自由自在に出没するには驚かざるを得ません。

所感。今迄から幼稚なる小供は、時間空間の觀念がないから、唱歌でも御話をするにも、前後の連絡には無頓着にて可なりと思つて居りましたが、今日の唱歌を拜見しますと、幼兒にも幼兒らしい

時間空間の觀念があると思ひまして、甲より乙に移り目に、連絡あることを大に喜びましたから、唱歌にしる談話にしる、何でも適當の連絡をそれについで附けることが大事かと存じました。殊に、甲を利用して乙に進むといふ風は、よほど効果ある様に拜見しましたから、この點に於て大に練習を要すべきかと思ひます。

私のやうなものは、連絡にのみ腐心しますと、ついで子供らしくない、五段教授法的になり易いので御座いますから、よく變化中の連絡を、自然的に無意識的に出来る様、大に努力せねばならぬと考へます。

十一月八日 金曜日 晴天 暖なり

觀察事實

早朝。○愛子は私を見付けて、遠方より走りて來ました。

○百合子、○孝子なども何處よりか來りて、手や袖にマトヒ付きました。

小供は一人で居ることの出来ぬものと見えます。即社會的本能によりて人にまとひつき、その中

に道徳を覺えるのでありますから、よく誘導すべきかと思ひまして、いろ／＼の發問をし談話も聞いて居ましたが、その少しはなれた處に、○が一人で手持無沙汰に立つて居ります。この兒のみ社會的本能の薄き筈なかるべし、氣の弱きためならんと思ひまして、呼びましたけれども不活潑でありました。

あなた達は、成長すれば何になるかと問ひますと、藤村神保吉武はお母さんになるといふに、中島は「お姉さんになるといふ。「それではお母さんにはと問ひますと、知らぬと答へましたから、何故にお姉さんになるかと申しますと、一等好きだからといひます。次に他の三人に何が一等好きかと尋ねますと、お母さんと答へました、これこれ等は、大人が偉人物を崇拜して、自己をそれらまで向上せしめ様とする努力の崩芽と見てよからうと存じます。これ等から考へますと、幼兒をかくせんと望めば、先づ幼兒にそれを好まさせなければなりませんと思ひました。

内遊を経て先生の紐置を拜見いたしました。初め

はあまり興がらす居りましたが、幼児の二三人が人の形を作りました。それを先生は早く観取せられて、貝殻を興へられ、目鼻を付けさせられました。それから、幼児は非常に喜びまして、他兒も皆これを真似て、うれしがつたこと並大抵ではありませんでした。

所感。今迄拜見する處によれば、手技などを課しますと、必ず早く出来たる子供は、おくれる子供世活焼をしたり、悪戯をしたり、乃至はあくびして厭嫌を來たす様で御座います。これは活動を生命とする幼児の本性でありますから、いたし方ありませぬ。故にそれを防ぐ法として、早く出來上りました幼児には、随意に他の形を作らせて居られた様でありましたが、今日は先生の紐置によつて一新法を示して頂きました。それは幼児が作つた型について、なほ一層精密にそれにつれての幼児の思想を發表させてやることであります。即人型に貝殻の目鼻を付けさせられた様なことでござります。幼児は活動性のものであります、常時その潜勢力を發表せんと努力して居るものであり

ますから、この方法は保育の要訣であると思はれます。幼児のよるこぶのは尤も、たゞ感じ入りました。これから私も幼児の製作物を見ますと先づその子供の思想を呑み込み、完全にそれを發表させる機會を興へられる様に、注意せねばならんと存しました。保育の要訣は、幼児の潜勢力を誘導し、その活動を衝動せしむるにありといふことを紐置で真から悟りました。

▲米國富豪の玩具 昨年來のクリスマスに米國に於て兒童への贈物として最も高價なる玩具を購入したるはザンガービルト氏なる由にて氏は五歳の幼児の爲めに六個月前より一の小自動車注文したるが此自動車は普通の自動車より形小なるのみにて一切の構造完備し價は普通の自動車の二倍なりと又同氏は邸内の馬場小形の鐵道及び停車場を設け小兒が運轉し得る小形の機關車及び客車等を造らしめたりと云ふ